

第83回麻布獣医学会 一般演題17

産業動物臨床基礎実習実施5年目の評価と問題点

武藤 眞, 入来 常德, 恩田 賢, 伊東 正吾, 新井佐知子,
金子 一幸, 押田 敏雄, 川上 静夫, 若尾 義人, 和田 恭則

麻布大学獣医学部獣医学科

[目的]

平成15年度から始まった獣医学科1年次を対象とする本実習(前期1単位)の目的は,入院患者の飼養管理を通して臨床に必要な基礎的事項を体験的に習得させることにある。学生の産業動物に関する興味や認識等を把握するために実習終了後,今回もアンケート調査を行ったので,実習に対する認識やそれら評価等について報告する。

[方法]

前期に週1回(木曜日)の講義(14:00~15:00)と実習(15:10~16:50)を計12回行った。なお本年度から外来講師(北海道農業共済連)による講義を1回設けた。一方,実技は班単位(計20班)で5日間(朝8:00~8:45,夕16:00~18:00)の実習を行い,全ての実習が終了した翌週に報告会を行った。

[結果]

今年度の履修者は104名(全体の71%),単位認定者は85名であった。履修者の出身地は関東(56%)が最も多く,中部13%,近畿と九州・沖縄10%および中国・四国は6%であった。卒業後の就職希望

先は小動物臨床(58%)が多く,産業動物(6%),公務員(12%)であったが,進路未定の学生(15%)も存在した。さらに履修者の83%~98%はこれまで牛,豚,馬に接した経験がなかった。講義は例年同様に今年も関心度が高く,上位は家畜共済(27%:講義のみ実施),馬(17%),豚と一般検査(15%)となり,実習の評価も同じ順位であった。一方,産業動物繋留室の実技では搾乳(44%),飼料調整(26%),ミルクの給与(21%)等に関心が高かった。実際に動物に触れた印象としては,生き物であるという実感(40%),可愛い・大人しい・繊細である(29%),楽しく新鮮で良い経験(18%)および動物の大きさ・外貌(11%)であった。臨床基礎実習全体の評価は97%が良好と判断し,産業動物臨床の見方について変わったと評価した学生は95%であった。また講義や実習および実技に対する意見や要望等は年々少なくなる傾向にあった。とくに今回は卒業生の共済獣医師に現場での体験を話していただいたことで,産業動物に対する認識や興味を一層高めることができたと考えられた。